

●**台風 19 号の影響 中聖牛への新設通路 洗堀され 崩壊 150m** 先週に流れ橋が 24 回目の流出を伝えましたが、足元の玉水浜での中聖牛への通路が 150mほど流出してしまっています。ここでは飯岡の水位が 4mになっていました。高水敷の上に水位が上がって、猛烈な勢いの水流がぶち当たったと考えられます。150mほどの通路が洗堀されて流失してしまいました。このままでは 11 月 23 日に予定している中聖牛の設置が出来なくなりそうです。

この通路は 17 年に中聖牛を設置するにあたって淀川河川事務所の稲垣環境課長が現地を視察にいられて、現地への通路が全くなく 1 時間をかけて 500mほどの洪水跡での藪漕ぎをされて実感していただいて、木津川出張所の堂下所長が理解をいただき完成をしたものです。完成した翌日に台風のために増水して、完成した翌日に洗堀して破壊されたものです。さんざん苦勞して復元した因縁の場所でもあります、早速山崎出張所長に現実を報告しておきました。同時に稲垣課長にも現状を報告しておきました。

里山の会が総力を挙げて竹蛇籠の製作に取り組んでいるのは、今年で 3 回目となる中聖牛の設置を京都大学が研究のための装置としてへの協力です。これで 3 基を一組と考えて 4 組の計画のうち 3 組目の取組だから何としても期日前の運び込み(蛇籠 27 本、玉石 40 t、木材 90 本)には間に合わせていただいたいものです。

●**台風 19 号の影響で計画が中止に** 準備してきた 12 日の第 1 部現地見学と竹蛇籠製作講習会、第 2 部の蛇籠シンポジウム、そして第 3 部の交流懇親会が全部中止せざるを得ませんでした。中部地方と東北、関東地方に河川の決壊や氾濫による大きな浸水被害をもたらしました。木津川では昨年完成した流れ橋が 24 回目の流失になりました。これまでは 1300 トンで流れ橋や京田辺市の河川敷運動場が冠水し流失していたのです。今回は 1400 トンで流れ橋が流失しているのに、京田辺市の運動場が難を免れた様子です。飯岡の浜の水位は 4mと聞き及んでいます。

●**トヨタ自動車株式会社の国内小規模プロジェクト** トヨタ環境活動プログラム 2019 年度申請を行ったことは以前にお知らせしました。その折の申請内容をお知らせしておきます。事業名目は「木津川におけるイタセンパラの復活を目指す」というもので、プロジェクトの概要として、国の天然記念物であるイタセンパラが淀川水系で最後まで自然に生息した木津川でも近年の河川低下などにより河川敷の環境変化が進んできています。本会が関係機関とともに取り組んできている竹蛇籠や聖牛プロジェクトを活かして木津川の環境改善を図り、周辺の自治体、学校、地域住民などに学習会などを通じた呼びかけを行い、みんなで一緒になってイタセンパラの復活を目指すとなりました。

**活動の背景・必要性** 全国的にも珍しい砂河川である木津川は、イタセンパラが淀川水系では最後(2007 年)まで自然に生息していた川である。木津川でも砂利採取や上流でのダム建設による河川周辺の環境悪化がイタセンパラ絶滅につながったと考える。

この間、本会が主催する魚とりのイベントには毎回多くの参加が見られる。本会では再来年に結成 25 周年を迎えるにあたり、ぜひとも地域住民と一緒に、最後の生息地である木津川にイタセンパラを呼び戻したいと考える。

一方、本会では木津川に生育する真竹を活用して、魚の棲み処を作るために竹蛇籠を製作、設置することで成果を上げてきた。この技術を生かし、継承した中聖牛の設置を京都大学防災研究所と共同して昨年までに 6 基設置し、今年度、来年度も各 3 基の設置を予定している。

**活動の目的(何を何のために実施するのか)** 山城地域の中心を流れる木津川は、古来より奈良の

都、京都の都の交通の要所として大きな役割を果たしてきた。この木津川は都市河川の中に位置しながら素晴らしい自然を残す数少ない貴重な川である。この豊かな川に天然記念物のイタセンパラの復活を目指す運動を進めることで、川と疎遠になりつつある地域住民の関心と呼び戻し、川や自然の保全についての関心を高め、地球温暖化防止やゴミ汚染等、現代の川問題や川環境、ひいては自然と暮らしを見つめなおすきっかけとしていきたい。

川や魚を通して、自然を大切に考える人々を育てる社会貢献活動としていきたい。

**貴団体の実働人数(行政 地域などとの協働)** 本会の構成員は 160 名 実働軽作業参加者は 45 名 実働作業参加者は 20 名である。京の川の恵みを生かす会 20 名 摂南大学生 20 名、京都大学生 10 名、同志社大学生 10 名 個人的な協力者 20 名国交省淀川事務所、京都府、京田辺市役所関係でそれぞれ 5～7 名程度の協力が得られている。

**具体的な活動(どのように実施するのか)** 木津川流域の市民や企業、自治体、学校に働きかける、地域説明会の実施と啓発。過去の生息池の周囲の整備と進入路の整備：淀川河川事務所の木津川出張所への協力要請を行い、樹木伐採などの協力を得る。生息環境についての広報：自治体広報誌や一般新聞での案内記事や取材記事の掲載・スタッフの研修、学習会：本会や河川レンジャーの木津川交流会、京都府環境フェスタ等の発表交流会を通じて行う 城北ワンド等の先進地の見学研修。イタセンネット等との情報交換：現地での取り組みを知り、その教訓を生かす。木津川や周囲の池での生き物調査。竹蛇かごの製作と中聖牛の製作と設置。という方で申請書を提出しました。過日文書審査の結果、審査委員の判定待ちとの連絡ありました。審査が通った暁には会員皆さんの大きなご支援をお願いいたします。

●26 日の蛇籠の製作は諸般の都合で中止します。27 日は午前 9 時 30 分から製作を開始します。多分今の調子だと今年最後の製作講習会になる見通しです。我と思われる皆さん最終回となるであろう 27 日の取り組みにご参加ください、午前中に終了となる見通しです。

●27 日は三つの事業を同時参加推進となります、①城陽市の緑化祭りへの出展参加をします。木津川の植物、木津川の水質検査、中聖牛の取組の報告展示となります深田理事長、大村副理事長、河川レンジャーが担当します。②は竹蛇籠の製作で大釜理事、太田理事、福井社員が担当します。進行具合によっては午前中の取り組みとなります。竹蛇籠 4 本(2 基分)の製作ですが、進み具合では最終仕上げのドッキングとなります。③京の川の恵みを活かす会フォーラムでの活動紹介にも出席となります、山村常務理事が参加いたします。

●11 月 24 日(日)は竹蛇籠シンポジウムを行います 10 月 12 日の予定していた取り組みです。会場が確保できて発表者講師のご都合がつかまりましたので、開催いたします。11 月は木津川の希少種成育調査のうちの除草作業の最中ですが、万難を排して取組みたいと思っています。前日の 23 日は中聖牛設置の初日となります。これまではすべての聖牛の骨組み組み立てを原小組さんをお願いしてきましたが、今年はぜひ参加者全員が力を加えて自分たちの力で仕上げてみようと思います。参加いただく皆さんは協力するお手伝いをするという軽い気持ちでなく、作り上げるのだという積極的な構えでご参加をお願いします。

●秋は各種の展示発表会がつづく 城陽市の緑化フェスタ、京田辺市の市民文化祭、京田辺市の環境フェスタ京都府の環境フェスタ等多士済々です。里山の会の専売特許が自分で作る「松かさツリーづくり」です。今その準備で真っ盛り追込み作業を進めています。松かさの整理、柱木の取付、ナンキンハゼの実への色付け、そして来年のためのナンキンハゼの実拾いと大忙しです。少しの時間でもお手伝いに来てほしいです。もちろん静かになる夜は展示物の作製に皆さんはパソコンに向かって思案中です。ごくろう様です。頑張ってください。